

E i ボード機能改善版 (Ver.22.10) のリリース

E i ボード機能改善版 Ver. 22. 10 のリリースについてご案内いたします。

1. 発行プログラムと対象バージョン

発行プログラム	発行バージョン	バージョンアップの対象
E i ボード サーバー版	Ver. 22. 10	Ver. 14. 10 以降
E i ボード クライアント版	Ver. 22. 10	Ver. 14. 10 以降

※E i ボードのみのバージョンアップです。R4 データベースは変更ありません。

2. 日程

2-1.ダウンロード公開

2022年3月17日（木）より公開予定

※ダウンロードマネージャー、会計システムマイページ、お役立ちTools（クライアント版のみ）で公開します。

2-2.CD提供

2022年4月11日（月）より順次発送

※「ネットワーク基本ライセンス(SV)」を保有、かつR4アプリケーションのいずれかでCD保守契約を締結しているお客様に下記のとおり、E i ボードのセットアップCDを直送いたします。

保有商品	送付内容	
顧問／応援用 NW基本ライセンスR4	・ E i ボード サーバー版 Ver. 22. 10 (CD)	1枚
	・ E i ボード クライアント版 Ver. 22. 10 (CD)	1枚
	・ 送付ご案内（バージョンアップ手順書）	1部

※インターKXのCD保守契約をされているお客様につきましては、発送いたしません。

同時期に発送される財務会計 R4 Ver. 22. 1のCD保守版に、E i ボードサーバー版が同梱されています。

3. システムの変更内容

主な変更内容は次のとおりです。

3-1. 機能改善等

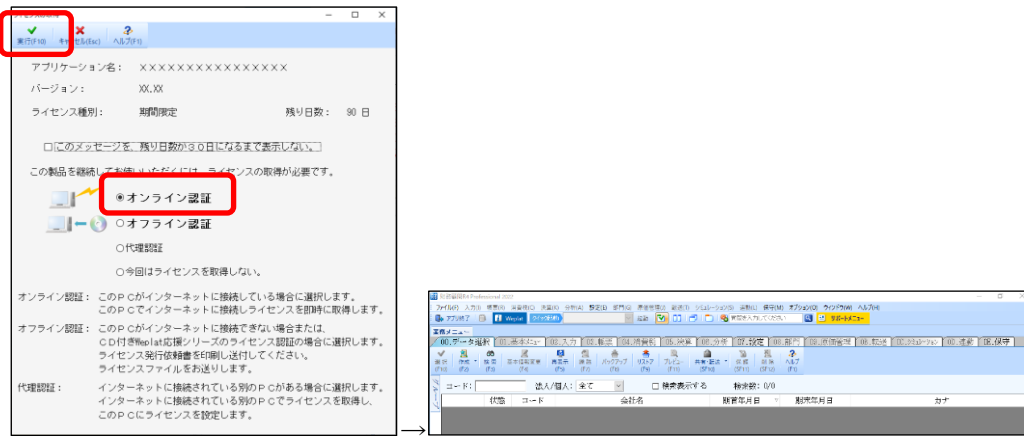
■ ライセンス認証改善



- E i ボードスタンドアローン環境で、R4 アプリケーション起動時にオンライン認証を自動で行うようになりました。
 - ・自動認証は、E i ボードにライセンスを保有するお客様番号とパスワードが設定されている必要があります。
 - ・新規のライセンス認証は、通常版と Weplat 版共に、R4 アプリ起動後に「オンライン認証」を選択して [実行] をクリックすると、R4 アプリケーションが起動します。(認証対象の製品を保有しているお客様番号が1つの場合です。複数のお客様番号で認証対象の製品を保有している場合は、ライセンス取得のライセンス一覧画面が表示されます。)
 - ・バージョンアップ後のライセンス認証は、Weplat 版の場合だけ、既に認証されている Weplat 製品の利用期間が残っていれば、R4 アプリを起動しただけで**認証画面は表示されずに**R4 アプリケーションが起動します。(CD 版と同等)
- E i ボードサーバー版環境、E i ボードクライアント環境、クライアント環境からスタンドアローンに切り替えた環境は、自動認証になりません。ライセンス取得のライセンス一覧が表示されてからライセンスを取得します。
- E i ボード Ver. 22.10 リリース後の財務 R4 Ver. 22.10 から、ライセンス認証方法が変更になり、今後順次対応されます。

① <通常版製品・Weplat 製品のアプリ起動時のオンライン認証 (スタンドアローン環境) >

通常版製品・Weplat 製品共に R4 アプリの新規ライセンス認証は、R4 アプリを起動してオンライン認証を選択後、[実行] をクリックしただけでライセンスを取得して R4 アプリが起動します。(認証するライセンス製品を保有するお客様番号が1つの場合)



※認証対象のライセンスを保有しているお客様番号が複数ある場合と E i ボードサーバー版環境、クライアント環境、スタンドアローンに切り替えた環境は、ライセンス一覧画面が表示されます。お客様番号を確認して [実行] をクリックします。認証結果画面で「○」が表示されたら [閉じる] をクリックすると、R4 アプリが起動します。(従来仕様)



② <Weplat 製品のアプリ起動時のオンライン認証（スタンドアローン環境のバージョンアップ時）>

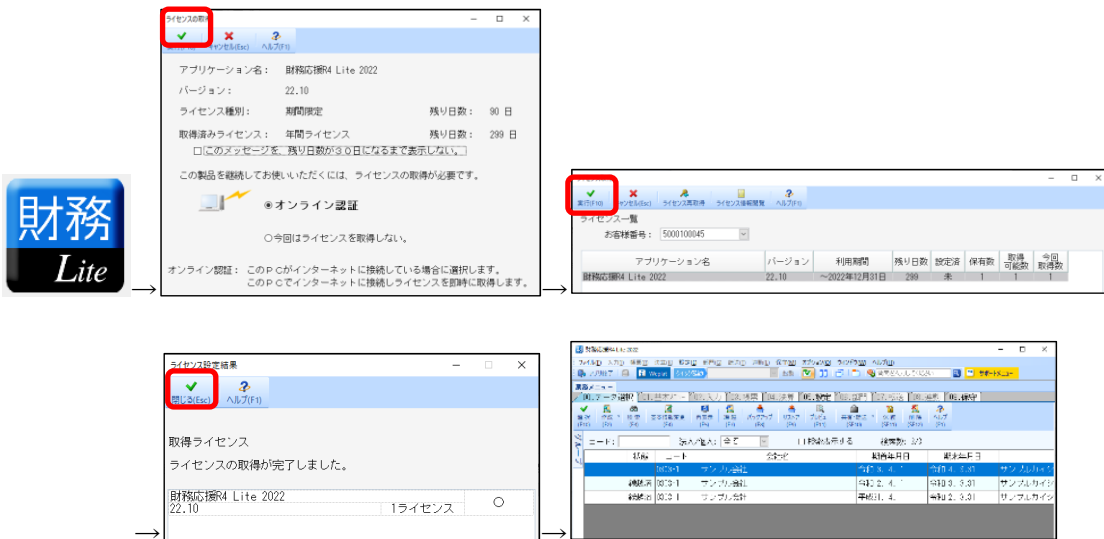
Weplat 製品のバージョンアップ後のオンライン認証は、R4 アプリのバージョンアップ後に R4 アプリが起動したときに、**認証画面を表示せずに**自動で同じ製品（複数のお客様番号があっても同じお客様番号の同じ期間）のライセンスを取得して R4 アプリが起動するようにしました。（取得済 Weplat 製品の利用期間が残っている場合です。WeplatCD 版と同等の動作になります。）

例) Weplat 財務応援 R4 Lite 自動バージョンアップの場合



※E i ボードサーバー版環境、クライアント環境、スタンドアローンに切り替えた環境は、自動認証になりません。ライセンス認証画面→ライセンス一覧画面→認証結果画面→R4 アプリケーション起動の順番で表示されます。（従来仕様）

例) クライアント PC にセットアップしている場合



※いずれの場合も、利用期間が残っていない場合は、認証画面が表示されてライセンス認証はできません。期間限定ライセンスの 90 日間の利用は可能です。

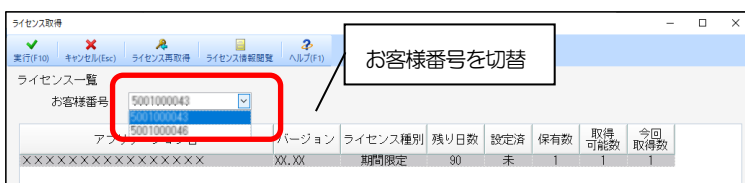
※通常版は、新規もバージョンアップも①と同じ動作になります。

③ <Weplat 製品を複数保有している場合のライセンス取得順変更>

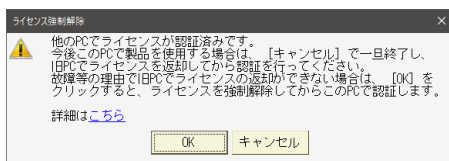
1 つのお客様番号で、同じ年間ライセンス製品を複数保有している場合の認証は、従来残り日数が少ないライセンスから取得していましたが、残り日数が長いライセンスから取得するようにしました。

④ <E i ボードのライセンス認証>

- お客様番号が複数登録されている場合、取得対象のアプリを保有しているお客様番号でライセンス取得のライセンス一覧を表示するようにしました。
- お客様番号が複数登録されている場合、ライセンス取得のライセンス一覧画面でお客様番号を切り替えることができるようになりました。



- ⑤ PCを移行する場合、旧PCの破損等でライセンス返却ができなかった場合は、新しいPCでアプリケーション起動時に確認画面を表示して、旧PCのライセンスを強制返却してライセンス認証できるようにしました。



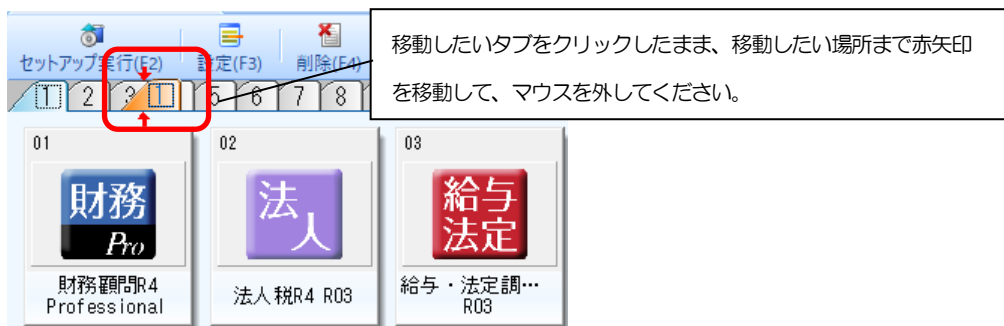
※この処理は、Weplat サーバーで一定期間は再実行されないように管理されています。PCを移行する場合は、あらかじめ旧PCのライセンスを返却しておいてください。

■アプリケーション起動画面改善

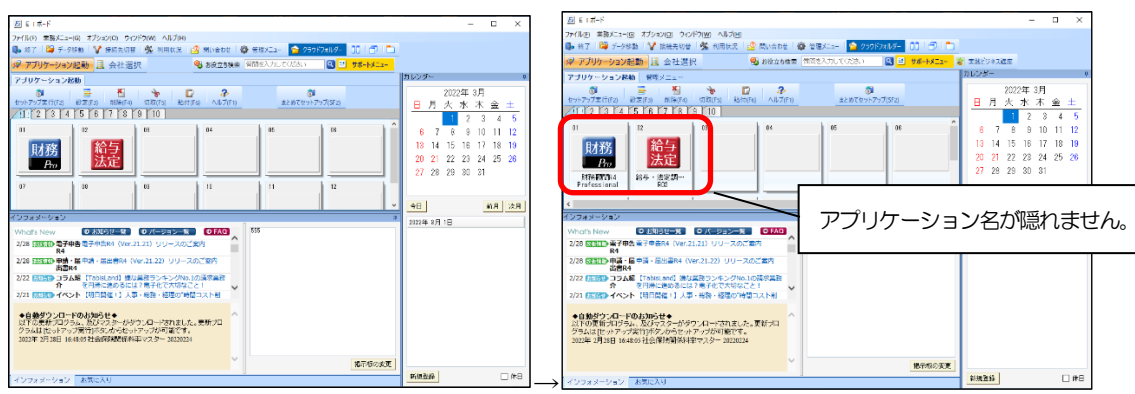
- ① アプリケーション起動画面で、アプリのアイコン名をマウスで選択して、別のタブにドラッグ&ドロップで移動できるようにしました。



- ② 10個ある起動タブの順番を、マウスのドラッグ&ドロップで変更できるようにしました。

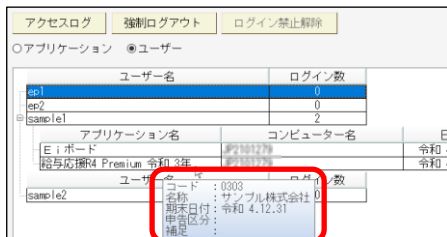


- ③ アプリケーション起動画面のサイズを小さくしたときに、起動ボタンのアプリケーション名が隠れないようにしました。



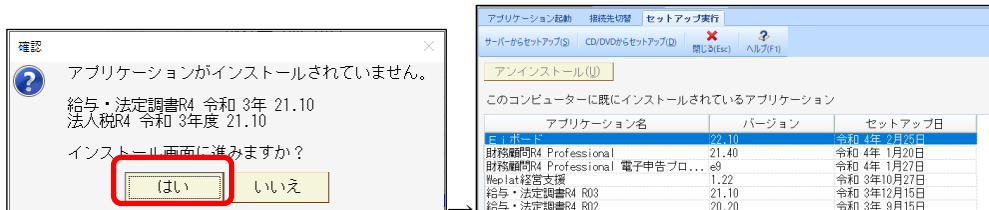
■利用状況改善

- ① ユーザー管理レベルが「一般」でも、自分自身が処理可能なデータであれば、強制ログアウトができるようになりました。
- ② 利用状況の画面で各行の 2 階層目行にマウスポインターを移動すると、該当のユーザーが処理しているデータ情報を表示するようになりました。



■接続先切替改善

- ① スタンドアローンに接続先を切り替えるときに、セットアップされている R4 アプリケーションのバージョンが持ち出し対象のライセンスよりも古い場合、警告メッセージを表示して、[セットアップ実行] 画面に進めるようになりました。



※セットアップをしないと、該当の R4 アプリケーションは起動しませんので、セットアップ後に接続先切替をしてください。

※電子申告 R4 はチェックの対象外です。

※次の過年度版 R4 アプリについては、仕様上、バージョンが一致していてもメッセージが表示されますので [いいえ] で接続先切替を行ってください。


給与・法定調書 R4 H26	14. 20
給与応援 R4 Premium H26	14. 20
給与応援 R4 Lite H26	14. 20
法人税 R4 H26	14. 38
法人税 R4 H27	15. 41
相続税 R4 H27	15. 32

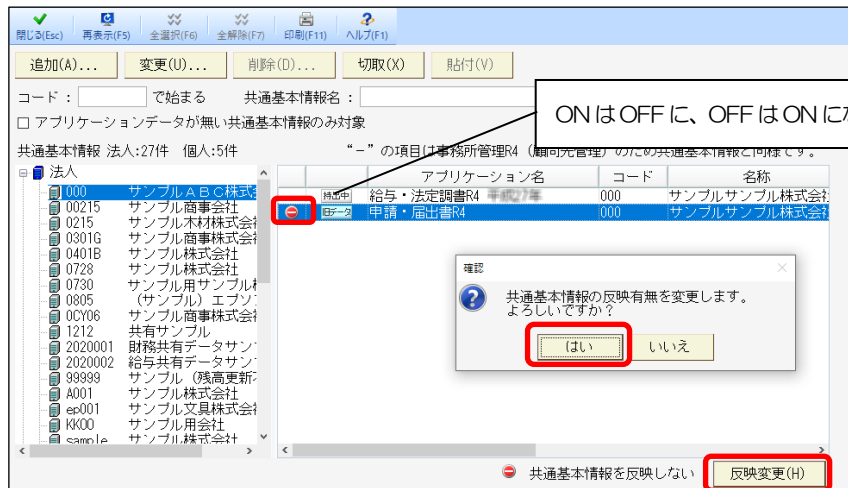
- ② 接続先がスタンドアローンでも、サーバーにデータを移動（更新）できるようにしました。

■共通基本情報メンテナンス改善

- ① 共通基本情報メンテナンス画面に「反映変更」ボタンを追加して、共通基本情報反映を「許可する」「許可しない」を変更できるようにしました。(進入禁止マークの ON/OFF 設定)

データを選択 (複数選択可能) → 「反映変更」 → 「共通基本情報の反映有無を変更しますか」 →

「はい」 →  の状態を ON→OFF または、OFF→ON

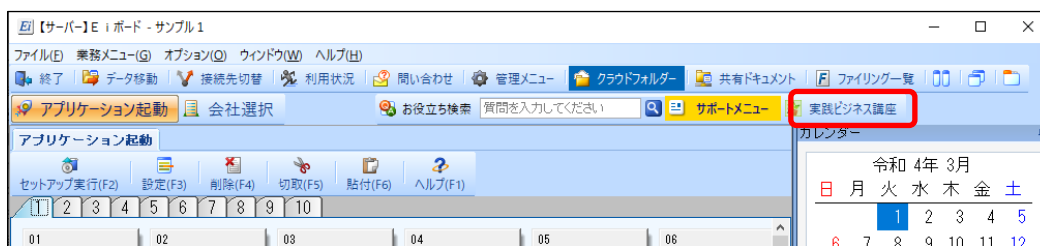


- ② 共通基本情報を変更する場合、右側のアプリケーション名が選択されていても「変更」ボタンで修正ができるようにしました。

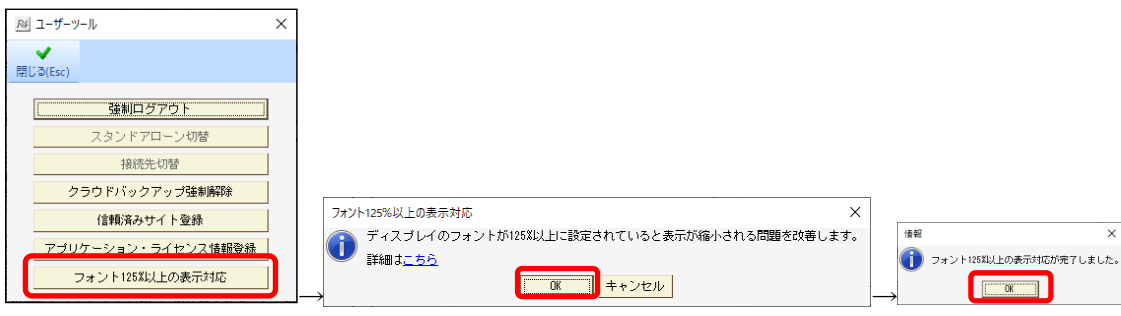
■その他

- ① E i ボードの「セットアップ実行」 → 「サーバーからセットアップ」(登録先からセットアップ)の画面表示の速度を改善しました。

- ② トータル保守・R4 オールインパックを保有している場合、または、業種区分：会計事務所・税理士法人・税理士のお客様の E i ボードには、情報発信サイトへのリンクボタン「実践ビジネス講座」を表示するようにしました。



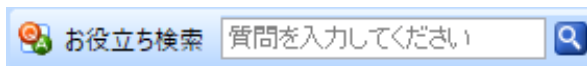
- ③ データ移動時に「他で会社データまたはユーザーデータが使用されているため、データの移動ができません。」と表示され、共通 DB がロックされて R4 アプリケーションが起動できない状態になるケースを改善しました。

④	エラーメッセージ画面の「こちら」をクリックして起動するブラウザを Windows の既定のブラウザに統一しました。
⑤	ユーザー設定支援ツールに [フォント 125%以上の表示対応] ボタンを追加して、ディスプレイの設定「125%以上」のとき、PDF 出力後に画面が縮小されないようにしました。
	
<p>※この処理は、該当 PC にセットアップ済みの R4 アプリケーションに有効な機能です。新しい R4 アプリケーションや新しい年度のプログラムを追加でセットアップした場合は、再度実行してください。</p>	
⑥	E i ボードを新規にセットアップするときの共通マスターを更新しました。(20220224 版)

■R4アプリケーション バックアップ/リストア機能改善	
①	R4 アプリケーションの [バックアップ] ボタンから [初期値を設定] を行った場合、[リストア] 画面の [初期値に戻す] が同じ場所になるようにしました。
②	R4 アプリケーションで他のユーザーが使用中の会社をバックアップすると、実行結果が「スキップ」となりますが、黄色の警告表示で注意を促すようにしました。
③	<p>R4 アプリケーションでバックアップを実行時したときに「入出力処理に失敗しました。」と表示されてバックアップできないケースに対応しました。バックアップ処理の途中で C:\¥Users¥<Windows ユーザー名>¥Documents¥EPSON¥OEN¥AppBackup¥<アプリ ID 別フォルダー>へアクセスできないときのエラーですが、この処理をリトライします。FAQ2452 で改善するケースへの対応です。</p> <p>手動バックアップのとき：「入出力処理に失敗しました。設定が読み込めませんでした。」</p> <p>自動バックアップのとき：「入出力処理に失敗しました。設定は保存されませんでした。」</p>

3-2. お役立ち検索のヘルプ検索終了

R4アプリケーションに搭載されている「お役立ち検索」は、これまでヘルプとFAQの検索が可能でしたが、今後はFAQのみの検索に変更させていただきます。そのため、オフライン環境のPCでは、お役立ち検索はご利用いただけなくなります。



R4シリーズでは、サポートメニューやエラーメッセージからのFAQリンクなど、インターネットを活用した情報提供を今後も積極的に行って参ります。インターネットに接続した環境でのR4アプリケーションのご利用をお願いします。

ヘルプ内の検索は、ヘルプボタンでヘルプを起動して検索が可能です。(オフライン環境も対象)

■E i ボードの対応

Ver. 22. 10を新規にセットアップしたPCでは、全てのR4アプリケーションのお役立ち検索画面でヘルプが検索対象外となります。

移行措置として、E i ボード Ver. 21. 10以前がセットアップされているPCにVer. 22. 10をセットアップした場合は、E i ボード以外のR4アプリケーションではヘルプとFAQの両方が検索されます。

■R4アプリケーションの対応

R4アプリケーションは、2022年5月以降にリリースされるバージョンより、ヘルプを検索対象外といたします。

これらのバージョンでは、E i ボード Ver. 21.10以前がセットアップされている環境でも、ヘルプが検索対象外となります。

3-3. Internet Explorer サポート終了への対応 (2022年6月15日時点での情報)

Internet Explorer 11 デスクトップ アプリケーションのサポート終了後は、Internet Explorer が無効化されMicrosoft Edge にリダイレクトされることがマイクロソフト社より告知されていますが、R4シリーズの以下の機能については、引き続きInternet Explorerが起動する見込みです。

- ・各アプリサポートメニューから開く、お知らせやFAQのリンク
- ・E i ボードのインフォメーションウィンドウから開くリンク

※上記の処理では、.NET FrameworkのWebBrowser コントロールという技術を使用していますが、ここからWebページを起動した場合はInternet Explorerが起動することが想定する動作であると、マイクロソフト社から回答を得ました。(ただし、一定未満のビルドバージョンの場合(Windows Updateが最新の状態でない場合)は、Microsoft Edge にリダイレクトされるケースもあるとのことです。)

上記の通りマイクロソフト社の認識のもと、今後もInternet Explorerが起動いたしますが、動作上の問題はありませのでご了承ください。

■Internet Explorerはアンインストールしないでください

Internet Explorerをアンインストールすると、サポートメニューやインフォメーションウィンドウからのリンクが開かなくなります。

アンインストールしないよう、ご注意ください。

アンインストールしてしまった場合は、スタートメニューを右クリック→「アプリと機能」→「オプション機能」→「機能の追加」からインストールしてください。

■クラウドサーバーにおけるInternet Explorerの動作について

Windows Server 2016のInternet Explorerにつきましては、今回のサポート終了の対象外となっているため、継続してご使用いただけます。

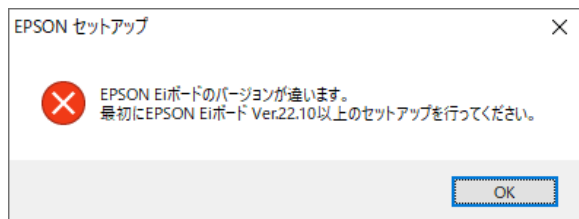
3-4. 障害対応

■障害対応	
①	PC 移行時に「全てリストア」した場合、旧 PC で「バックアップするフォルダー」に設定した「追加フォルダー」の設定情報が削除できない問題を修正しました。
②	会社名を上書きして作成したバックアップを、上書き前の会社がある環境にリストアしたときに、別会社としてリストアするようにしました。
③	次の機能の会社コード検索で「-」を指定できるように修正しました。 「アクセスログ」「データ移動」「利用者権限設定」
④	手動のバックアップで、一時領域に十分な容量があっても容量不足のエラーになるケースを修正しました。

4. バージョンアップの注意点

- 今後リリースされる R4 アプリケーションは、E i ボード Ver.22.10 が必須です。

E i ボード Ver. 22. 10 リリース後の R4 アプリケーション（財務 R4 Ver. 22. 1 以降）は、E i ボードがバージョンアップされていないと、次のメッセージが表示されてセットアップできません。



- サーバーとクライアントの両方を Ver.22.10 にバージョンアップしてください。

サーバーおよび全てのクライアントPCで、Ver.22.10へのバージョンアップを実施していただくようお願いいたします。バージョンアップする順番はどちらからでも構いません。

※サーバーのバージョンが不一致でもクライアントPCのE i ボードのセットアップでエラーにはなりません。

- サーバーのE i ボードのバージョンアップはクライアントの R4 アプリケーションを終了して行ってください。

ネットワーク版をお使いになっている場合、サーバーのE i ボードをバージョンアップする前に、全クライアントのR4アプリケーションを終了してください。

- 「製品・サービス向上のための情報利用」について

E i ボード Ver. 22. 1のセットアップ後に、「製品・サービス向上のための情報利用」の同意画面が表示されます。内容を確認して、[同意] または、[同意しない] を選択してください。

以上、宜しくお願いいたします。